

平成 29 年度 国語 「国語表現」 シラバス

科目名	国語表現	学年	2・3年
単位数	4単位	留意点	「国語総合」履修後の選択科目である。表現学習の全課程をとらえて、コミュニケーションの総合的な力を身につける。
選択・必修	選択		
教科書	国語表現(教育出版)		

◎科目の目標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

◎授業計画

	単元・教材名	学習内容	留意点
4月	1 基礎編 1 言葉に変える ステップ① 速く正確に書き写す ステップ② メモを取る・メモで伝える ステップ③ 絵を言葉にする ズームアップ1 筆写の天才 南方熊楠	◎表現学習を始めるにあたり、表現能力の自己診断を行い、学習の意義や方法や技術を確認するとともに、学習への動機づけを行う。 ○「書くこと」の中でも最も基礎的な「視写」「聴写」を行い、自己の表現能力の実態を把握する。 ○情報を取捨選択し、整理・記録するための基本的な技術を身につける。 ○絵や地図をことばに変える作業をとおして、ことばによる表現の可能性と限界を理解し、工夫の必要性を知る。	
5月	2 声の表現 ステップ① 声を出そう——発声・発音 ステップ② 文字を声に変える ステップ③ スピーチの方法 ステップ④ 声の発表会——「私のおススメBOOK」 ズームアップ2 他者に劈かれた声 竹内敏晴	◎発声・発音に始まり、音読・朗読やスピーチ・紹介など、声を発する具体的な場面を想定した学習をとおして、音声言語による表現方法の基礎を学ぶ。 ○呼吸の仕組みと腹式呼吸の方法について理解し、発音に留意した声の出し方を学ぶ。 ○文の構造を把握し、その意味を伝える音読の仕方、特に声の高低や間の工夫について学ぶ。 ○古文の読み方について基本的な留意事項を理解する。 ○スピーチのための事前の準備について理解し、本番の体験をとおして、その方法を学ぶ。 ○他者の興味・関心をひく文献の紹介と朗読の工夫について習熟する。	
	3 漢字と語彙 ステップ① 漢字の仕組みを探る ステップ② 語義を探る・語彙を広げる ステップ③ 文字による表現	◎漢字や語彙の学習をとおし、これらを習得していく習慣を形成するとともに、日本語の特徴に関心をもち、解釈や表現に生かそうとする意識を育てる。 ○漢字の構造や部分の働きを理解し、漢字の読みや意味を考察する。 ○単語の意味を調べ、その変遷をたどることで、古代の人々のものどらえ方にふれ、日本語に興味を持つとともに、自らの語彙の拡充を図る。 ○文字による表現の特徴を理解し、効果的な表記の方法を考えていく。	

6月	4 人とつながる言葉 ステップ① 挨拶と人間関係 ステップ② 待遇表現——敬語によるコミュニケーション ステップ③ 励ます言葉・受け入れる言葉	<ul style="list-style-type: none"> ◎ ことばの性質やことばと人間とのかかわりについて理解し、言語生活や具体的な表現活動に役立て、人間関係を維持・構築していこうとする認識を養う。 ○ 挨拶が人間関係や社会生活にどのような影響を及ぼしているかを理解し、自らの言語生活を検証してみる。 ○ 敬語が人間関係の調整や場の状況にどのようなにはたっているか考え、自己表現としての敬語の使用方法を理解する。 ○ ことばの可能性と危険性についてさまざまな角度から理解するとともに、「聴く」ことの働きについて考察する。 	
	5 言葉遊ぶ ステップ① 言葉遊びを楽しむ ステップ② 川柳を作る ステップ③ 「二次創作」に挑戦する	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 言語による表現の娯乐的・創作的な側面を理解し、関心を深めるとともに、言語生活の歴史的連なりや社会的広がりについて学ぶ。 ○ さまざまなことば遊びの体験をとおして、言語表現の多様な側面を理解し、またその楽しさを知る。 ○ 川柳という伝統的な文芸ジャンルについて理解を深めるとともに、実作をとおして、ことばのもつ批評性を知る。 ○ もとになる物語作品について理解を深め、パロディーなどの二次創作に取り組む。 	
	6 文章表現の基礎 ステップ① 連絡文の書き方 ステップ② 効果的な説明の方法 ステップ③ 相手や目的に応じた文章 ズームアップ3 レトリックの工夫	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 相手や目的に応じて正確で効果的な伝達や表現の方法を理解し、その技術を身につける。 ○ 記書きなどの理解をとおして、正確に伝達するための文書の作成技術を身につけ、連絡文書を書く。 ○ わかりやすい情報の配列や効果的な説明の手順を理解することで、工夫された伝達文や説明文を書く。 ○ 二つの文章を比較して、相手や目的に応じた表現について理解し、実際に紹介文を書く。 ○ 文章を効果的に表現する工夫の一つとして、レトリックを理解する。 	
7月	II 実践編 7 小論文Ⅰ ステップ① 意見を論理的に述べる ステップ② セルフ・ディベート ステップ③ 文章の「型」——構成の方法 ステップ④ 構成ノート ステップ⑤ テーマ型小論文の実際 ステップ⑥ 文章のリフォーム——推敲	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 文章の「型」を各種のトレーニングを通して習得し、論理的な文章を書くための基礎力を養成する。 ○ 小論文は根拠に支えられた意見を述べるものであることを理解し、具体的なトレーニングを通して意見と根拠を短文で書く。 ○ 与えられた論題から適切な問いを見つける方法を学ぶ。 ○ 異論や反論を想定した意見提示の方法として紙上におけるディベートを行い、防衛力と説得力のある論理展開の仕方を学ぶ。 ○ 文章構成のバリエーションを学ぶとともに、特に小論文の「型」としての三段構成の特徴を理解する。 ○ 文章執筆のための設計図としての「構成ノート」を理解し、実際に作成してみることで小論文執筆の準備の仕方を学ぶ。 ○ テーマ型小論文の特徴を知り、「問い」と「答え」と「根拠」に着目しながら実際に執筆する。 ○ 書き上げた文章を推敲するときの観点を具体的に学び、典型的な悪文について理解を深めることで、他者に理解されやすい文章の書き方を学ぶ。 	
	8 小論文Ⅱ ステップ① 要約の方法 ステップ② 課題文から問いを見つける ステップ③ 課題文型小論文の実際 ステップ④ データを読む	<ul style="list-style-type: none"> ◎ 要約の方法を理解し、二つタイプの小論文の実践的な書き方を身につけ、論理的に意見を述べる力を養う。 ○ 文章を要約する際の基本的な観点を理解し、実際に要約文を書くトレーニングをとおして、的確な読解力と適切な表現力を身につける。 	

7月	ステップ⑤ データ型小論文の実際 ズームアップ4 つなぐ言葉	<ul style="list-style-type: none"> ○課題文を読んでから書く小論文の特徴を知り、設問の要求を的確に読み分けることや、課題文の要約、引用の仕方などに習熟する。 ○課題文提示型の小論文を実際に執筆する。また、課題文型もテーマ型と同様、明確な意見提示と、十分な根拠によって展開されることを学ぶ。 ○グラフや表などのデータの読み方を理解し、小論文を構成する要素を取り出し、実際の執筆に役立てる。 ○データから読み取れた内容が実際の小論文ではどのように展開されているかを理解する。 	
9月	9 論文作成法 ステップ① 論文作成の準備 ステップ② 論文作成の実際——「日本人の暮らしとコンビニ」 ステップ③ 論文の仕上げ——引用と執筆	<ul style="list-style-type: none"> ◎論文作成の手順と方法を学び、発展的な論理的文章力を育成する。 ○論文作成の手順を知り、執筆以前の過程を具体的に理解する。 ○テーマの仮設から資料収集、分析、そしてアウトラインの作成に至る各作業の留意点について理解する。 ○引用のルールやマナーについて理解し、注や参考文献の表記などの論文執筆時に必要な事項について習熟する。 	
10月	10 プレゼンテーションの方法 ステップ① プレゼンテーションの実際 ステップ② プレゼンテーションの技術 ステップ③ スライドを使ったプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> ◎これまで培ってきたコミュニケーションのさまざまな技術をプレゼンテーションにおいて実践するとともに、話し言葉と書き言葉、言語と非言語の違いに気付き、場や道具などがコミュニケーションの重要な要素であるという認識を育てる。 ○プレゼンテーションの流れについて理解し、説得力のある話し方の技術について学習する。 ○自分広告を作り、テーマと内容について工夫したり、プレゼンテーションの実際例をもとに、全体の構成の方法や効果的な話し方の技術を習得したりする。 ○総合的な音声言語表現であるプレゼンテーションの表現要素、評価の観点、情報の視覚化の方法について学習する。 ○情報の視覚化の方法として、プレゼンテーション・ソフトによるスライドの作成について理解し、それを使用して実際に行ってみる。 	
11月	11 面接——社会との接点 ステップ① 自己を分析する ステップ② 質問と応答のレッスン ステップ③ 模擬面接をする	<ul style="list-style-type: none"> ◎自己を知り、場面を判断し相手に配慮して、自分の意見を述べるという面接の学習をとおして、社会への参加能力を育てる。 ○自己分析をとおして自分を理解し、自己アピールを作成する。 ○実際の面接の場面を想定し、伝わる話し方について理解して、面接における心構えと技術を習得する。 ○模擬面接をとおして、面接の基本事項を学び、実践力を身につける。 	
12月	12 話し合いの方法 ステップ① 目的に応じた話し合い ステップ② ディベートの方法1 ステップ③ ディベートの方法2 ステップ④ 意思決定・合意形成のための会議 ズームアップ5 多数決と全員一致	<ul style="list-style-type: none"> ◎目的に合わせた話し合いの形式や手法を学び、意思決定や合意形成のための会議の方法とルールを理解する。 ○話し合いの目的に応じてなされている工夫を理解し、アイデアの出し方や原案の作り方を習得する。 ○ディベートの流れときまりについて確認し、論題についての調査から立案までの方法を学ぶ。 ○実際の流れにそって、ディベートにおけることばの用い方や発言の技術を学び、ディベートを実践する。 ○家族会議の記録を題材にして、意思決定や合意形成の方法やルールについて理解する。 	

1月	<p>Ⅲ 総合編</p> <p>13 物語の創作</p> <p>ステップ① 物語作りの基礎レッスン</p> <p>ステップ② テーマから物語を紡ぎ出す</p> <p>ステップ③ 作品集作りと合評会</p>	<p>◎物語を作りながら表現を楽しみ、作品を一冊の物語集にまとめる。</p> <p>○絵カードを並べ替えながら想像し、ストーリーを作成する。</p> <p>○抽象語によるメインテーマを起点にして具体化させていくピラミッドワークを用いて、物語を作成する。</p> <p>○編集委員会を組織し、作業を分担して作品集を作り、合評会を行う。</p>	
2月	<p>14 メディア・リテラシー</p> <p>ステップ① メディアの特性を知る</p> <p>ステップ② 新聞記事を読み比べる</p> <p>ステップ③ 広告というメディアを読む</p> <p>ステップ④ 情報を編集する</p> <p>ズームアップ6 情報の海を航海する——メディア・リテラシーの課題</p>	<p>◎身の回りのさまざまなメディアについて知り、それぞれの特性をふまえた情報発信とその社会的意味について認識を深める。</p> <p>○言語と画像について、メディアとしての特徴を知り、表現手段としての性質を理解する。</p> <p>○同一の対象についての記事でもその表現内容に違いが現れることを理解し、メディアが立場の違いをメッセージに反映させていることを理解する。</p> <p>○広告におけるAIDMAの法則について理解し、実際の広告を分析して、表現上の工夫を確認する。</p> <p>○情報を発信する場合には、読み手が理解しやすいようにメディアの特性を生かした編集上の工夫が必要であることを理解し、実際に表現してみる。</p>	
3月	<p>15 社会にはたらきかける表現</p> <p>ステップ① 外に踏み出す第一歩——ポップを作ろう</p> <p>ステップ② 自分の世界を伝える——見る人の心をつかむスライド作り</p> <p>ステップ③ 地域社会を知る——イベント企画の用意</p> <p>ステップ④ 地域とつながる表現活動——イベントの実行へ</p> <p>ズームアップ7 社会にはたらきかける表現</p>	<p>◎ 学校内におけるチャリティコンサートというイベントを企画し実行することを想定して、企画会議、渉外・広報活動、会場準備、事後処理などの一連の流れを学習することによって高等学校における国語表現の学習の総まとめを行う。</p> <p>○ポップ作りをとおして、人をひきつける情報発信の手法を学習する。</p> <p>○学校紹介のスライド作りをとおして、受け手の五感に訴える表現の仕方を学ぶとともに、情報発信の際のさまざまなルールを理解する。</p> <p>○地域社会に出かけ、企画のアイデアや手法を学び、地域の人々のアドバイスをもとに企画書にまとめていく。</p> <p>○イベントを実行することを想定して、企画会議を開く段階から、イベント当日、更には事後処理の段階に至るまでに必要とされる表現技術のポイントについて学習する。</p> <p>○広報や渉外活動におけるメディア選択の観点について考察することで、表現とメディアの関係について学習する。</p>	
※ 作 品 資 料	<p>☆ツールボックス</p> <p>◇漢字と語彙のトレーニング</p> <p>◇小論文の発展トレーニング</p> <p>◇言葉の作法集</p> <p>一、敬語</p> <p>二、電話のかけ方</p> <p>三、手紙文の書き方</p> <p>四、メールの書き方</p> <p>◇言葉の背景集</p> <p>一、説得のための五つの論法</p> <p>二、ディベートと「テレビ政治」</p> <p>三、目的に合わせた話し合いの形態</p>	<p>○漢字や語句への関心を深め、語彙力を高める。</p> <p>○1章の基礎トレーニングを受けて、各種小論文の実践な書き方を身につけ、意見を論理的に述べる力を養う。</p> <p>○日常的なコミュニケーションに必要な基礎知識を理解し、自らの表現に生かす。</p> <p>○音声言語コミュニケーションの中で「話すこと」と「聞くこと」に関する基礎知識を理解し、自分の表現に生かす。</p> <p>○本とコンピューターというメディアを比較検討することによって、メディアのリテラシーについて理解を深める。</p> <p>○小論文のテーマ一覧を参照することで自己の論文テーマの幅を広げる。</p> <p>○多様な文章を読み、自己の発想や表現の工夫に役立てる。</p>	

<p>四、本とコンピュータ 五、非言語コミュニケーション ◇文章サンプル集 ①言葉——自己表現の強い武器(高樹のぶ子) ②文章上達のコツ(井上ひさし) ③考えるために書く(市川伸一) ④言葉の持つ力(三浦綾子) ⑤聴くという行為(鷺田清一) ⑥いつまでもガキの感性をもって(ビートたけし) ⑦盗まれた？ 靴(井上史雄) ⑧「人間と動物」という二分法との訣別(松沢哲郎) ⑨地球環境への処方(松井孝典) ⑩「かわいい」論(四方田犬彦) ⑪物語の役割(小川洋子)</p>		
--	--	--

評価の方法

- ・評価は、定期考査や小テスト（知識・理解）を中心に、出席状況や授業への取り組み状況（関心・意欲・態度）、発言や提言（思考・判断）などを総合的に判断して行う。
- ・定期考査は、前期・後期ともに中間考査と期末考査をそれぞれ百点満点で行う。
- ・小テストは、漢字・語句に関するものや、古典学習時には、学習内容に関連したものを実施する予定である。小テストの得点は定期考査の結果に加算する。
- ・グループによる調べ学習に付随して、発表の授業とレポートの提出を予定している。
- ・グループ学習による発表学習については、担当教員の評価の他、生徒相互による評価も行い、担当教員が実際の評価を決める際の資料として活用する。
- ・各学習のまとめ段階では、自己評価や相互評価も活用する予定である。
- ・なお、年間授業時間数の1/3以上を欠席すると、単位を認定しないので注意すること。